

報道関係者各位



不動産の達人

株式会社さくら事務所

だいち災害リスク研究所

半数以上が8～10月に発生！？秋のシーズンに注意！ 家族と住宅を守るために知っておきたい竜巻対策

業界初の個人向け総合不動産コンサルティング・ホームインスペクション（住宅診断）、マンション管理組合向けコンサルティングを行う「不動産の達人株式会社さくら事務所」（東京都渋谷区／社長：大西倫加）が運営する防災シンクタンク「だいち災害リスク研究所」の所長・地盤災害ドクターの横山芳春 博士（理学）が、「【竜巻対策】秋のシーズンに注意！住宅被害を防ぐ備えと避難方法」としてコラムを公開しました。

9月5日に静岡県で大規模な竜巻被害がありました。家屋に被害をもたらすことがある竜巻。実際に遭遇する確率は低いですが、発生した際に気を付けたい竜巻災害。竜巻とはこういった災害であるか、竜巻に関する情報発表は？、我が家でできる竜巻対策、竜巻が間近に迫ったらどうするか？についてまとめました。

竜巻に対する基礎知識

■8～10月に多い。静岡で発生したクラスは5年に1回程度

- ・年平均17件発生、静岡で発生したクラス（JEF3）は5年に1回程度発生
- ・年間に発生した半数以上が8～10月に発生と集中している
- ・沿岸の平野部に多いが、関東平野では内陸部でも発生
- ・帯状の狭い地域に集中して甚大な被害をもたらす

■屋内、屋外で竜巻が迫った時の行動は？

- ・屋内では雨戸を閉め1階の窓のない部屋に避難する
- ・丈夫な机やテーブルの下に入るなど身を小さくして頭を守る
- ・屋外では近くの頑丈な建物かその物陰で身を小さく
- ・プレハブ等は避難場所にしない。身を守る者がいない場合は水路等に

我が家の竜巻対策は？

- ・2000年以降の住宅は耐風性が強化、しかし稀な強い竜巻は防げない
- ・小規模な竜巻や突風対策をしておくことが現実的
- ・窓ガラスを割れにくくすることが有効。シャッター、雨戸がない場合は後付けも
- ・次善の策としては段ボール、ベニア板などを窓枠に固定。養生テープはほぼ効果がない。飛散防止にはフィルムを
- ・竜巻を含む強風が想定される際には事前に雨戸等を占める、飛散しやすいものをしまう、固定等の準備を
- ・我が家の中で、竜巻発生、また懸念される際の避難場所の確認を

詳しくは、コラム「【竜巻対策】秋のシーズンに注意！住宅被害を防ぐ備えと避難方法」
をご覧ください。

<https://www.daichi-risk.com/column/39134/>

疑問・質問がある方はお気軽にお問合せください。専門家が取材に対応させていただきます。

さくら事務所について <https://www.sakurajimusyo.com/>

1999年、不動産コンサルタント長嶋修が設立。「人と不動産のより幸せな関係を追求し、豊かで美しい社会を次世代に手渡すこと」を理念として活動する、業界初の個人向け総合不動産コンサルティング企業です。

だいち災害リスク研究所について <https://www.sakurajimusyo.com/daichi/>

安全性の高い土地選びと住宅づくりを広めることを目的として2021年に大西倫加が設立。防災のコンサルティング事業を開始し、国内唯一の個人向け災害リスク診断サービス「災害リスクカルテ」を提供する、さくら事務所運営のシンクタンクです。

株式会社さくら事務所

広報室：堤



東京都渋谷区桜丘町29-24 桜丘リージェンシー101



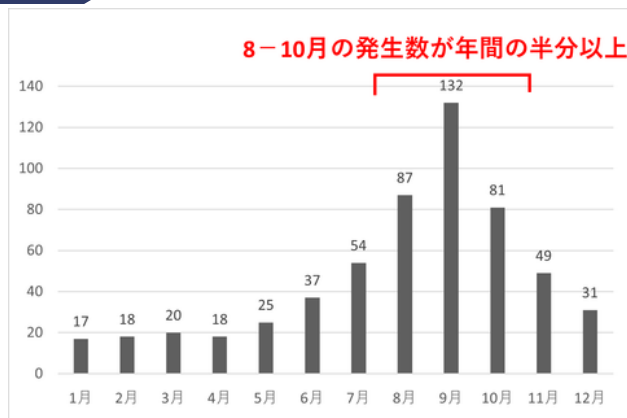
press@sakurajimusyo.com



03-6455-0726



FAX 03-6455-0022

<https://www.sakurajimusyo.com/>

月ごとの竜巻発生数

（気象庁の1991-2025年集計より作成）